

我が校の強み・弱み分析・評価シート

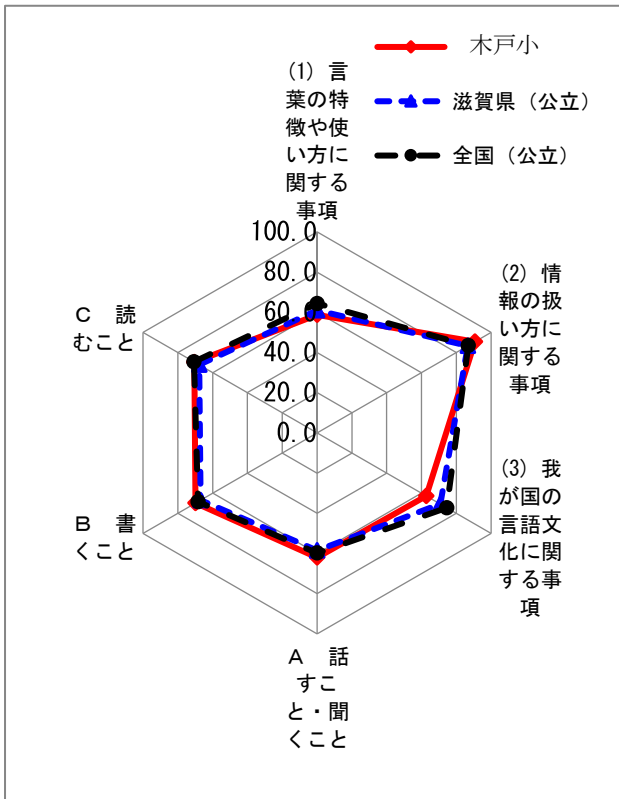
大津市立木戸小学校

1, 学習に関わること【学習指導要領の内容の平均正答率の状況】

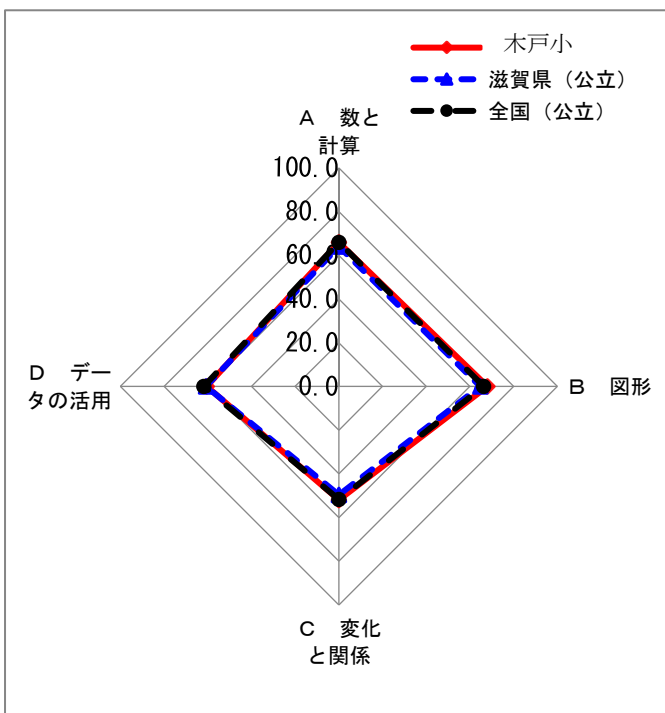
※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。

※グラフは全国平均正答率と本校平均正答率のポイント差に基づいて作成しました。破線はポイント差の中央値を表しています。破線より外側の場合は強み（成果が現れている項目）、内側の場合は弱み（改善を検討する項目）と捉えることができます。

〈本校の強みと弱み〉



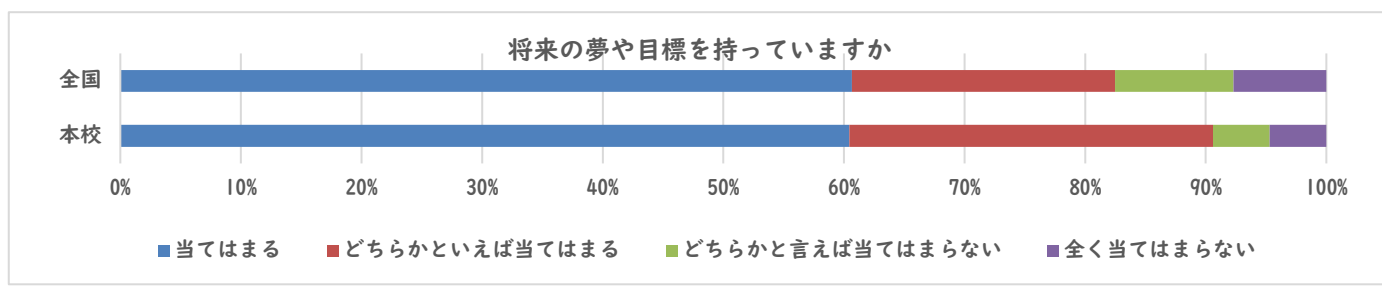
【国語科】「話すこと・聞くこと」の領域において、どの設問でも全国平均をおよそ6ポイント上回っており、全国平均を2.2ポイント上回っていた。本校では、クラス内でテーマを設定して行う「スモールトーク」や、意見交流を活発に行い「対話的な学び」を促進する授業に取り組んでおり、更なる向上が期待される。目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くことを問う問題では全国平均を5.8ポイント上回る一方で、話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかを問う「言葉の特徴や使い方に
関する事項」の領域において、全国平均を6.1ポイント下回った。本校では、昨年度より全校百文字作文に取り組んでいるが、日記や授業後の振り返りを書く際にも、話し言葉と書き言葉が混在している様子が見られる。事実と感想や意見を区別して書くことに加え、話し言葉と書き言葉を区別し、児童が表現を工夫しながら文を書くことができるよう取り組んでいく。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかを問う問題において、全国平均を5.9ポイント下回った。基礎的な学力を高めるため、授業改善や家庭学習支援を充実させていく。



【算数科】「図形」の領域において、見取図についての理解を問う問題では5.2ポイント全国平均を上回った。また、「数と計算」の領域において、問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかを問う問題では10.9ポイント、除数と商の大きさの関係についての理解を問う問題では7.6ポイント全国平均を上回った。今後も、問題を自立的・協働的に解決する過程を大事にした授業・単元計画を進めていく。一方、「変化と関係」の領域において、グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題では、全国平均を9.1ポイント下回った。データから必要な情報を読み取り、目的に合わせて記述する問題に取り組むなど、発達段階に応じて基礎から積み上げていく。

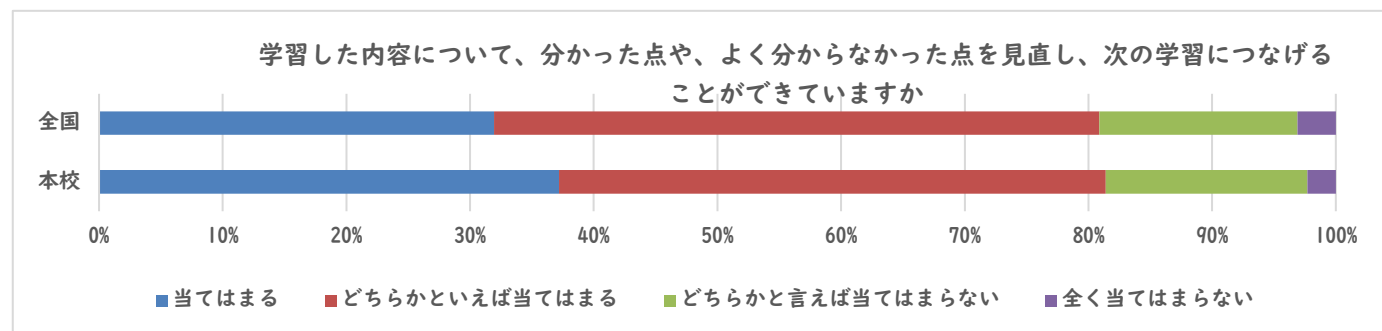
「夢と志をもって生きる木戸っ子」

エージェンシー
OECD ラーニングコンパス2030
子どもたちがウェルビーイングを実現していくために自ら主体的に目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動がとれる力の育成



進んで学ぶ子

○自分の考えを持つ力の育成 ○自分を表現する力の育成 ○チャレンジする力の育成



【重点取組事項】

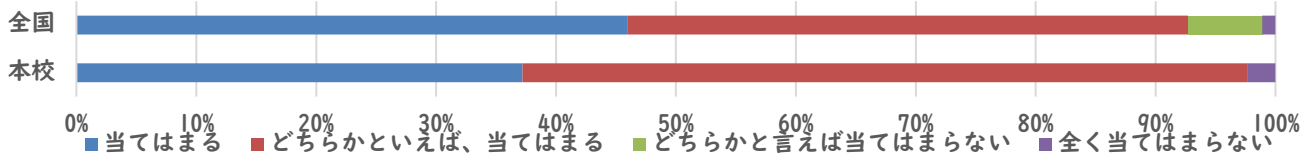
本校では上記以外の校内アンケートにて、「学習はわかりやすい」・・・94%、「友達と協力したり話し合ったりして、落ち着いて学習している」・・・96%の児童が「当てはまる」・「やや当てはまる」と回答している。

授業づくりでは、①めあての提示と振り返りの設定の徹底およびその工夫②木戸小スタンダード(授業スタイルの統一・学習規律の統一・児童が参画する教室環境づくり)の実践③「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ、対話的な学びを促進させたり、ICT を活用したりすることで、学びの保障をめざしている。

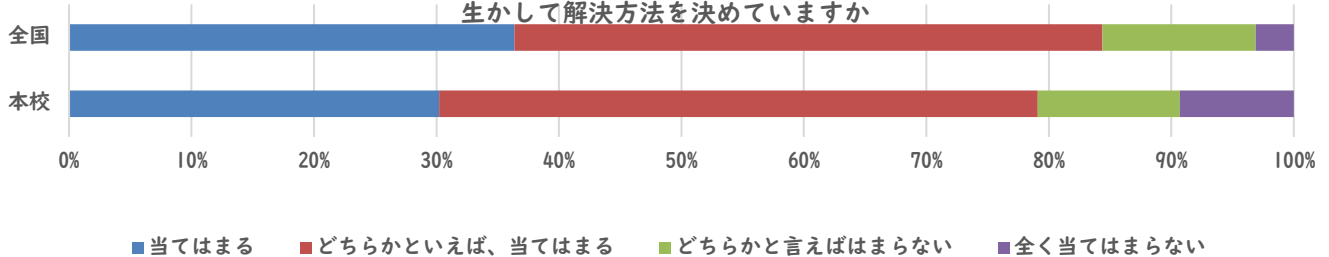
なかよく協力し合う子

〇人を大切にする力の育成〇多様性と包摂性の尊重〇特別活動・学校行事の創意工夫

人が困っているときは、進んで助けていますか



あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



【重点取組事項】

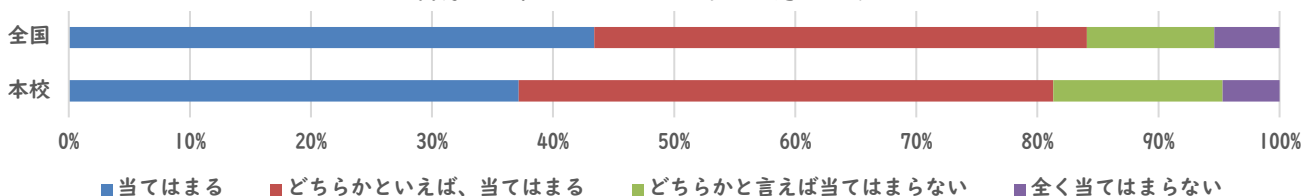
本校では、支持的風土の学級づくりを通して、児童会活動や学級活動の充実を目指し、◇年間を通した異学年交流◇学年の力を高める集会◇木戸っ子総会◇やるぞカードのふりかえり(クラブ・委員会)◇委員会常時活動の見える化(掲示板・連絡黒板)◇全員参加のクラス会議◇木戸小の当たり前と委員会活動とのタイアップ◇学校だより・HP等による情報発信の充実などを、具体的な方策として取り組んでいる。また今年度より、「木戸リンピック」にて、全校を3色に分けた異学年交流を始め、仲間意識や帰属意識を高める活動にも取り組んでいる。

他の校内アンケートにおいて、「思いやりの気持ちをもって誰にでも親切にしようとしている」という質問に対して「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した児童は、97%となっている。今後も、様々な行事や話し合いを通して、自ら判断し、行動できる力や協働する力の育成に取り組んでいく。

明るくたくましい子

〇運動に親しむ態度の育成〇健康的な生活習慣の確立〇体系的な保健・安全教育の創意工夫

自分には、よいところがあると思いますか



【重点取組事項】

上記アンケートについて、肯定的な回答が全国を2.7%下回った。児童が活躍する場面を設定したり、学習の過程や成果を評価し、ほめたりする機会を増やすことで、自己肯定感を高めていく。他の校内アンケートにおいて、「体育の授業や宿題、休み時間の外遊びなど、からだを動かすことは楽しい」と95%の児童が「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答しており、毎日の体育の宿題やロング昼休み、木戸リンピックなどの取り組みによる成果だと考えられる。今年度も引き続き、身体(見る・聴く・触る・対話する)を使ったりリアルな体験活動の機会を意識化し、充実させていく。また、「チームとしての学校」の力の一層の向上を図るために、コミュニティ・スクールとの連携も進めていく。全国学習学力調査の形式知や経年変化を用いて分析し、児童の実態について共有し、今後の学校づくりに繋げていく。